

兵庫県揖保川第1・第2工業用水道事業紹介

○事業の主旨

揖保川工業用水道事業は、姫路市西部臨海部の播磨工業地帯に工業用水を供給することを目的としている。

豊富で低廉な工業用水を安定的に供給することにより、産業振興による地域の活性化、地下水の過剰くみ上げによる地盤沈下等の防止など、経済の発展と県土の保全に大きな役割を果たしている。

○事業の経緯

昭和10年代になると、姫路市西部臨海部に多くの工場が誘致され、播州工業地帯として発展し始めた。兵庫県は昭和13年にこの地域に工業用水を供給する目的で第1次計画（揖保川第1工業用水道事業の前身である播州工業用水供給事業計画）を策定し昭和14年2月に内務大臣の許可を得て事業に着手した。

さらに、昭和16年に揖保川河水統制事業により引原川にダムを建設し、開発された工業用水を給水する第2次計画（揖保川第1工業用水道事業の前身である西播工業用水道事業計画）に着手したが、社会情勢の激変のために、昭和22年に事業を中止した。

その後、昭和28年に揖保川河水統制事業を揖保川総合開発事業と改称して事業を再開し、これと並行して揖保川第1工業用水道事業（旧西播工業用水道事業）に着手、昭和33年3月に完成、同年10月から給水を開始した。

また、姫路市西部臨海部の水需要の増加に対処するために、昭和44年に日量40,000m³の地下水を水源とする揖保川第2工業用水道事業計画を策定し、昭和46年4月から給水を開始した。

さらに、平成4年に新規立地や事業の拡張に伴い発生した需要増に対処するため、日量35,800m³の拡張事業に着手し、平成8年4月に給水を開始した。この事業の水源は、新たに水源を開発するのが困難であったため、揖保川第1工業用水道から振り替えた。

○工業用水道施設の概要

揖保川第1工業用水道事業は、引原ダム（共同ダム）を貯水施設とし、揖保川表流水及び伏流水を水源とし、

姫路市内の事業所に給水している。給水能力は、257,880m³/日である。

揖保川第2工業用水道事業は、引原ダム（共同ダム）を貯水施設とし、揖保川表流水及び地下水を水源としている。工業用水は揖保川左岸で取水し、揖保川ポンプ場で加圧し、姫路市及び揖保郡太子町内の事業所に給水している。給水能力は、75,800m³/日である。

○ユーザーの概要

（平成20年3月末）

揖保川第1工業用水道		
業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
鉄鋼	1	166,580
化学	1	89,300
窯業・土石	1	2,000
揖保川第2工業用水道		
業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
鉄鋼	4	12,600
化学	3	33,790
電気機械	5	22,380
土木建築	1	30
その他	1	7,000
合計	17	333,680

○事業の特徴

- ・揖保川第1工業用水道の配水施設は、受水企業の施設である。
- ・揖保川第2工業用水道は、配管ルート of 複数系統化により安定給水に努めている。
- ・2回線受電を実施し、停電対策に努めている。
- ・事故等に備えて、市川工業用水道と連絡体制を整えている。

○兵庫県企業庁水道課のホームページアドレス

<http://web.pref.hyogo.jp/kousui/index.htm>

揖保川工業用水道 給水区域概要図



— 配水管
 — 受水企業所有配水管
 — 国道
 ■ ポンプ場
 🛞 堰

主要設備

・取水及び導水施設

(揖保川第1工業用水道)

取水堰	
可動堰	1.7m × 26.0m
固定堰	73.0m
取水井	直径 6.0m 1基
導水管	径 1,500 mm 延長 100.0m
導水渠(石張)	延長 105.0m
貯水池	有効貯水量 25,350 m ³
集水埋渠	
1.15m × 1.10m	延長 246.0m
1.45m × 1.35m	延長 94.2m
導水管	径 1,350 mm 延長 107.5m

・配水施設

(揖保川第1工業用水道)

配水施設は受水企業の施設

(揖保川第2工業用水道)

ポンプ場上屋	2棟
ポンプ	75kW 6台
水中ポンプ	45kW 2台
配水管	径 1,000 mm 延長 2,349.0m
	径 700 mm ~ 400 mm
	延長 19,356.0m
水管橋	径 700 mm ~ 400 mm
	延長 910.0m

(揖保川第2工業用水道) (揖保1と共有)

集水埋渠	
1.2m × 1.2m	延長 655.0m
集水埋管	径 800 mm 延長 112.0m